令和7年度 住吉高校 第2回 学校運営協議会

日時：令和７年10月９日（木）15:30～17:00
場所：住吉高校 会議室

出席委員（敬称略）

〇協議委員 6名
大塚 耕司(大阪公立大学 教授)、中西 洋(大阪市立阪南中学校校長)
森田 英嗣(大阪教育大学 教授)、八木 秀夫(後援会 会長)
山内 憲之(PTA 会長)、佐藤 友亮(ベネッセコーポレーション)

〇学校 13 名
中山（校長）、久堀（教頭）、田仲（事務長）、稲木（首席）、内田（首席）
西本（国際文化科長）、中川（国際部長）、山本（進路指導部長）、左（教育相談）
北口（生活指導部長）、山田（総務部長 司会担当）、鈴木（記録担当）

次第

1． 学校長挨拶 中山 玲代
2． 会長挨拶 大塚 耕司 様
3． 委員紹介
4． 今年度の本校の取組み・進捗状況について
（1）本年度の学校経営計画について（中山校長）

「学力向上と進路実現」の評価

1. 外部から識者を招いての校内教員研修を９ 月に実施。学校教育自己診断は近日中実施予定。
2. 進路 HR は各学年 1 回実施。2 年生はあと 3 回実施予定。進学講習は夏休みに 1，2 年 7 講座、3 年は 14 講座実施。模試分析会は各学年 2 回実施予定。
3. 時間外勤務時間（4 月～9 月）。188 時間で 2%増。教員の業務平準化は進んでいない。

「国際・科学高校としての質と深化と成果の普及・発信」の評価

1. 発表会は 6 月と 9 月に実施。次回は 1 月末に実施予定。探究要素を入れた教科の公開授業を9月に実施。
2. 探究活動の評価は教員研修もかねて会議を開いて協議している。
3. 国際共同研究は 11 月、12 月にオンラインで進捗を共有し、1 月末の成果発表会に備える。「住高支援ネットワーク」の活用は6月と9月に実施。次回は1月にできればと検討中。
4. ユネスコの活動に自主的に参加する生徒が出てきた。国際部とコラボ企画も昨年度に引き続き実施。
5. 校内の学校説明会を 10 月 4 日に実施。約 1200 名が参加。12 月と 1 月（予備）にも実施予定。
6. 小・中学校の招待行事は 7 月、11 月、12 月、1 月に実施予定。「住高ブログ」は現在 440 回を超

えた。インスタグラムは 340 回となり、フォロワーは 1800 人を超えた。

7. 教職員対象の人権研修を 7 月に実施。生徒対象の人権 HR は LGBTQ、部落問題、在日外国人問題、拉致の問題など、各学年で取り組んでいる。

8. 学園祭が終わり、後期の活動としては学年行事がある。自治会執行部が企画、運営する予定。

9. 挨拶・清掃・遅刻指導は生徒の状況がよくないので、指導法を模索中。

(2) 総合科学科の取組み・進捗状況について（大門総合科学科長）

1. 校内横断プロジェクト

令和8年度に3年探究で実施される「分野横断ディスカッション（ディベート）」の試行と教材開発。現在模索中。他校も見学予定。

2. 国際探究の拡充

海外研修の継続。科学探究の要素を取り入れた国際科学研修（ハワイ）を SSH による支援で実施した。前回よりも科学要素を多めにしている。満足度も二年連続100%。

3. Go Beyond プロジェクト(外部連携促進)

研究室・企業訪問、1 年生のフィールドワーク（本物体験）必須化を継続する。

住高支援ネットワークの研究経験者を増やし、2 年生の外部連携経験率 30%以上をめざす。

4.成果の普及・発信に関する取り組み

地域連携イベントの推進において、地域の小中学生を対象とした実験交流や天文学同好会による展望会などの地域参加イベントを継続する。

5. 授業改善

授業改善チーム「STEP UP LABO」を中心に、全教員が教科横断授業を実践し、その事例を校内外に発信する。

(3) 国際文化科の取組み・進捗状況について（西本国際文化科長）

国際文化科は「1年暗唱大会（11月）」「2年英語ディベート大会（1月）」「1年英語合宿（3月）」を実施。2年英語ディベート大会は、「日本の再生可能エネルギーに移行すべき」をテーマとしている。また総合科学科2年では今年度より「科学英語（週2回）」の1コマを英語ディベートとして実施。今年度よりネイティブ教員が4名体制になり、このような充実した英語教育が可能になっている。

(4) 国際部の取組み・進捗状況について （中川国際部長）

1. 国際交流行事受け入れについて

①7 月 15 日（火）韓国の交流校、クムダン高校から 18 名の生徒と引率教員 4 名が来校した。バディによる出迎え後 1，2 限の授業体験をし、3、4 限は韓国語選択者との共同授業に参加した。午後は本校生徒と市内散策に出かけ交流を深めた。

②10 月 1 日（水）から 5 日（日）までオーストラリアのマムレアングリカンスクールの生徒 23 名と引率教員 4 名が来校した。本校の生徒と教員宅にホームステイし、授業体験や本校 PTA 国際部の保護者の協力による大阪市内散策などを楽しんだ。歓迎式ではマムレの生徒による文化パフォーマンスが披露された。

2. 海外研修について

①夏休みにハワイ国際科学探究研修とオーストラリア語学研修を実施。満足度はどちらも100%。ベトナム研修は 2026 年 3 月に実施予定。

②大阪府主催の大阪グローバル塾に参加した 7 名の生徒は無事に研修を終えた。

③同窓会特別奨学金によるケンブリッジ研修は現在候補者を選定中。

④TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Program に参加した生徒から、研修で学んだことを後輩に共有したいと本人から申し出があり、学年集会で研修報告をした。

3. 国内での交流活動

①ラオスオンライン交流は 2 回開催。文化祭でラオスのコーヒーを販売。売り上げは今後文房具や生活用品購入のためにラオスの現地の学生に渡し、山岳少数民族の村に寄付してもらう予定。

②ECCグローバル体験には 100 名を超える生徒が参加した。

③2026 年 2 月の大阪マラソン語学ボランティアはこれから募集予定（前年は20数名参加）。

④JICA、大阪大学留学生との交流も学年ホームルームの時間の中で実施予定。

（5）進路指導部の取組み・進捗状況について （山本進路指導部長）

前年度から継続した取り組み

①進路ホームルームの設定。要所に「進路」を考える機会を確保する。

②模試の積極的な活用。結果を分析する機会（生徒・教員とも）をつくり、「次」に生かしていく。

③高い目標の設定とそれを維持させる指導。国公立大学の魅力を配布物やその他指導を通じて発信し、国公立大学への進学を促進する。

④今年度の指導方針として「積極的な情報発信に努め、生徒の主体性・可能性を引き出す指導を行う」を掲げている。また、進路指導室を整備し、生徒が利用しやすい環境をつくる。

⑤共通テストは昨年226名。今年は203名申し込み。私立大志望が増えている。国公立を目指すように声をかけている。

（6）生活指導部の取組み・進捗状況について（北口生活指導部長）

遅刻指導について

①3 年前より、作文形式の反省文をワークシート形式に変更している。3日の連続遅刻があれば、早朝登校を実施している。

②5月末時点での遅刻総数は 353 件で、前年度比約 136%であった。引き続き全体の遅刻数を減らしていきたい。

防犯カメラについて

①通用門、正門の 2 か所に防犯カメラの設置。さらに、夏には下足ロッカーにも設置。

（7）教育相談の取組み・進捗状況ついて（左教育相談委員）

教育相談

①スクールカウンセラー（SC）

スクールカウンセラーは、今年度、年間 16 回程度来校予定。1回6時間。1回5名のカウンセリングを受け、当該生徒の担任と振り返りの相談をしている。初めて受ける生徒にとってはハードルが高く感じるようで、カウンセリングを受けるか迷うこともあった。一度カウンセリングを受けてみることで、継続を希望する生徒もいた。

②スクールソーシャルワーカー（SSW）

スクールソーシャルワーカーは、今年度、システムが変わり、派遣の要請願を配置校(堺工科高校)に提出し、認められれば派遣されるという形式になった。SSW のかかわりにより、今まで連絡が取れなかった生徒と連絡を取れるようになった事例がある。家庭環境も見つつSC とも協力して関わっていく。

5．質疑・協議（●質問・意見　→回答）

●ユネスコスクールはどのような取り組み？

→10月ごろにテーマを絞って学び、加盟校が集まって発表を行っている。計6回の取り組みがある。

●マムレアングリカンスクールの来校時、授業中生徒はどうしているのか？先生は何をしているのか？

→それぞれバディの生徒と一緒に授業を受けている。授業後はホームステイの生徒も対応している。計4名の先生は、2日間2名ずつ、交代で学校を見学していた。

●授業料無償化は進路に何か影響はあるのか？

→無償化による影響は特になし。現在の学力に合う大学を目指すことが多い。

●私立大学への進路が増えていることに関して、なにか分析をしているのか？

→国公立が減っているから、私立大学が増えている。早くに進路を決めたい、勉強の負担が大きいことなどが要因として考えられる。校内選考の数も減っている。国公立にむけて頑張る気持ちや国公立の良さなどを発信している。

●遅刻指導のワークシート形式はどのような形のもの？

→B4一枚のプリントになっている。記入内容は、遅刻の理由（振り返り）、今後の改善（改善策を考える）、担当の印（担任による指導）、振り返り（担任指導による振り返り）、保護者の記入（保護者からの指導）。振り返ってみて対応するための形式。1～4期連続の対応策を考えている。

●SNSの発信、犯罪に巻き込まれることもある。生徒指導ではどこまで取り組んで対応している？

→名前を伏せてSNSに投稿しても自身のことかと感じる人もいる。それを意識しSNSの発信時細心の注意を払うよう伝えている。すべての情報を鵜呑みにしないように多面的にとらえようと伝えている。生活指導だけでなく、人権HRでも伝えている。

●学習を通したSNSの指導がいると思う。

→人権HRでは、年に1度、外部の方を招いて講習を実施。また始業式などに、スマホや電波の悪影響について、発信している。

●探究カフェなどを実施することで宣伝になっている。中学校などにも探究の種をまくという意味で、宣伝の一つになると思われる。
●SSHの探究活動は中学のカリキュラムにも影響を与えていると思う。強化してほしい。
●SSHの教材をオープンにしている。それによる反応や他校からのフィードバックは何かあるのか？
　→現在は特になし。

6．校長 謝辞

7．今後の学校運営協議会の開催予定について
　　第３回 令和8年2月 12日（木）15:30 ～ 17:00